

月例まちづくり学習会の運営と 地域における役割、教育における役割

—熊本大学工学部まちなか工場の熊本市中心市街地活性化支援活動—

Operation of the Public Lectures on Planning and their roles to the region and the School
— Actions for Vitalizing Downtown Kumamoto City
by the Downtown Planning Station, Faculty of Engineering, Kumamoto University

○両角 光男^{*1} 溝上章志^{*1} 富士川 一裕^{*2} 前田 芳男^{*3}
Mitsuo MOROZUMI Shoshi MIZOGAMI Kazuhiro FUJIKAWA Yoshio MAEDA

キーワード: 公開講演会 まちづくり、地域貢献、教育

Keywords: Public Lecture, Urban Planning, Regional Contribution, Planning Education

1. はじめに

熊本大学工学部は、学生のものづくりの感性を高めることを目的に、平成17年度から工学教育モデルの開発事業に着手した¹⁾。その際に熊本市中心部の上通並木坂商店街にサテライト研究室「工学部まちなか工房」を開設した(以下「工房」と略し、ここを拠点に研究活動している教員と学生をそれぞれ「工房教員」「工房学生」と記す)。その狙いは大きく二つあった。第一に、学生や教員が臨床的、実践的にまちづくりの技術や方策を学習し研究する場を作ること。第二に、中心市街地の活性化に向けた地元の取組みに参加するなど、工学部の地域連携拠点を作ることだった。

本報告では、後者の重要な活動である、月例の「まちづくり学習会(以下、学習会)」について、その運営と活動を紹介し、さらには地域に果たした役割及び工房学生の教育に果たした役割について考察する。

2. まちづくり学習会の運営

商店街や熊本市などの地元関係者はもとより、中心市街地のまちづくりに関心を持つ市民を対象とする、無料公開の工房主宰行事である。中心市街地のまちづくりをテーマに、県内外から招いた専門家や実務経験者などの講演を聞きながら参加者が意見交換してきた。工房教員・学生の研究発表や地元を考えるワークショップなども適宜組み合わせている。なお遠方の講師を招く際には、工房予算で大学の規定による旅費と講演料を負担している。

学習会の日程、テーマ、講師の選定などは、工房教員、主要商店街リーダー、熊本市職員、熊本大学政策

^{*1} 熊本大学大学院自然科学研究科

^{*2} 熊本大学工学部まちなか工房、(株)人間都市研究所

^{*3} 熊本大学工学部まちなか工房、(有)トトハウス

創造研究センター教員で構成する幹事会で検討している。工房学生は資料作成や記録づくり担当する。

学習会の案内は、工房ゼミスペースの収容定員(50人)を考慮して、学習会開催時に次回の予定を伝えるのと、名簿登録した過去の学習会参加者にFAXやメールする程度にしている。口こみで新規に参加するケースや、学習会の記事が新聞に掲載された際に、電話で翌月からの案内を希望するケースもあり、名簿登録者は徐々に増えており、現在は12団体、99人となっている。

3. 学習会の開催状況

平成17年7月以降、平成21年3月までに46回開催した(表-1)。講師の延べ人数は63人である(学生はグループ発表であり、まとめて一人と数えた)。このうち工房外の講師が43人、さらに県外講師は35名だった。テーマ別には商店街運営に関するもの、芸術・文化・デザインの視点で都市を捉えたもの、都市計画の制度や仕組みに関するものなど多岐にわたる。

当初は、中心市街地の空洞化問題や郊外SCセンター進出問題が深刻化していたことから、中心市街地のまちづくりビジョン構築を会の目的に掲げていた。その後まちづくり三法が改正され、熊本市も中心市街地活性化協議会や中心市街地活性化基本計画が策定されたため、現在は、中心市街地活性化の具体的な施策や事例紹介と検討が主なテーマとなっている。テーマに応じて参加者が入れ替わりながらも、毎回30名から40名が参加しており、工房の活動として定着した

年に一回は熊本市及び中心市街地商店街の連合組織(熊本市中心商店街等連絡協議会)と合同で、市民まちづくりシンポジウムとして拡大開催してきた。平成17年度と19年度は、金沢市や岡山市の行政や商店街組織の代表者を招いて、「城下町の個性を活かした

表—1 まちづくり学習会の開催テーマと講演者一覧

まちづくり学習会への招聘講師		2007年度		2008年度	
07月07日	近田玲子(近田玲子デザイン事務所) 光のまちづくり	04月27日	兼田嘉和(株)しばた洋傘店代表取締役 (新天町商店街公社監査役) 博多の花道—新天町の商店街整備と運営について	02月18日	佐藤滋(早稲田大学) 古庄修治(熊本市企画財政局企画広報課企画課) 城と城下町を活かすまちづくり
07月01日	両角光男(まちなか工房) 熊本市中心市街地の現状と活性化の課題	08月04日	小林一郎(まちなか工房) 欧州の歩道橋:大義への共感	03月06日	まちなか工房に所属する学生 大学生が提案する中心市街地(通町桜町地区)のまちづくり構想
08月08日	清上章志(まちなか工房) 人を呼び込むまちの交通計画	09月22日	吉本光(ニッセイ基礎研究所基盤文化プロジェクト委員) アートによる都市再生の戦略	2008年度	伊東正示(シアターワークショップ) 劇場やホール施設の整備とまちづくり
09月08日	小林一郎(まちなか工房) 白川・坪井川の親水空間を活かすまちづくり	10月22日	美しい城下町くまもと・その街なかに住む 工藤和美(東洋大学) 正木達夫(県マツカン管理組合連合会長) 泉冬星(熊本市中心商店街等連合協議会代表) 石橋央輔((株)BS不動産代表取締役社長) 反藤人美(株式会社&A-モックビジュアル代表) 竹下麗和(九州大学) 磯田節子(八代工業高等専門学校)	04月24日	伊東正示(シアターワークショップ) 劇場やホール施設の整備とまちづくり
10月13日	富士川一裕(まちなか工房) 金沢・岡山・熊本 まちなかの特徴比較	10月27日	遠藤玲(芝浦工業大学) 自律移動支援システムとまちづくり	05月22日	桜井武(熊本市現代美術館) 現代美術館とまちづくりについて
11月07日	「平成の城下町」新たな魅力づくりに向けて 東川庄一(整町商店街振興組合理事長) 村田秀彦(アール・アイ・イー) 木下浩之(金沢市都市対策局総合調整課) 大野慶子(岡山市東京事務所) 高田美紀子(表町おかみさん会会長) 泉冬星(中心商店街等連絡協議会会長) 富士川一裕(まちなか工房)	11月15日	(1)中心市街地活性化基本計画の策定方針ならびに県市事業の検討状況、民間事業抽出を含む今後の作業見直し(熊本市) (2)六商協エリアアヒアリング結果に基づく、事業のアイデアや補助事業の展開可能性について(まちなか工房)	06月29日	吉野勇(熊本市都市建設局都市政策部都市活性化推進課) 「熊本市中心市街地活性化基本計画」概要と特徴、城下町地区の計画と今後の見直しなどについて
12月19日	両角光男(まちなか工房) 三都市シンポジウムのレビュー	12月13日	勳川たかね(映画専門学校院) 水辺環境活用のためのマーケティング ～まちの個性と暮わいのプロデュースを考える～	07月20日	大黒照彦(熊本大学) 白川河川氾濫の模型実験結果の紹介 山田文彦(熊本大学) 水害に対する地域防災力向上を目指したリスキューションの実践的研究
01月12日	三橋重昭(NPO法人まちづくり協合理事長) 郊外大型店とまちづくり	01月18日	本田正弘(熊本市経済振興局商工振興部) 熊本市中心市街地活性化基本計画(案業)と今後の取り組みについて	08月27日	望月照彦(多摩大学) 21世紀のまちの「ミュージアムシティ」は可能か—まちなかの地域資源を活かしたまちづくり戦略—
02月15日	前田芳男・富士川一裕(まちなか工房) まちなか活性化ビジョンワークショップ	02月08日	黒川雅之(建築家)12の建築と12の思想	09月25日	松下美紀((株)松下美紀照明設計事務所) あかりによる熊本の夜間景観の演出
03月17日	清上章志(まちなか工房) 吉武哲信(宮崎大学) 高田晋文(愛媛大学)土井健司(香川大学) 中心市街地活性化の実践方策	03月06日	白井隆(白井隆建築都市計画事務所) 庭園都市計画のすすめ	11月06日	城下町に住み集う—「まちづくり」から「まちを創る」へ 東川庄一(整町商店街振興組合理事長) 市村達也(金沢市企画調整課主査) 吉市大輝(岡山商工会連合会都市づくり委員会委員) 高次秀明(岡山市企画局次長) 泉冬星(熊本市中心商店街等連合協議会代表) 富士川一裕(まちなか工房)
2008年度	04月12日	03月14日	土井健司(香川大学) 古川康造(高松丸亀町商店街振興組合) 高松中心市街地の現状と将来ビジョン	2月11日	松永信弘(熊本県土木部土木技術管理室) 討論者:清上章志(熊本大学) 「第1回」の中心市街地活性化の取り組みや仕組みに学ぶもの
05月18日	上村博之(熊本市都市整備局水道部下水道政策課) まちなかの下水道のしくみと今後について	03月21日	まちなか工房に所属する学生 大学生から上り講師へのまちづくり提案と意見交換会	01月23日	まちなか工房に所属する学生 商店街における自主防災を考えるワークショップ
06月21日	上野真也(熊本大学政策創造研究センター) 熊本の未来と政令指定都市			02月19日	まちなか工房に所属する学生 地元と大学が協働した仮町開再開発への提案
				03月18日	黒竹節(京都くろくち(株)代表取締役社長) 歴史に学ぶまちの再生(課題)

まちづくり」をテーマに、各市の現状や中心市街地活性化の取り組みを紹介し、意見交換してきた。この企画も、隔年開催行事として点着しつつある。

4. 学習会が果たした役割

著名人を含む多彩な講師の熱い語り口を聞くなど、情報提供が地域にとっても、工房で学ぶ学生にとっても貴重なのはもとよりである。ここでは最後に学習会の間接的効果について述べる。

- 1) まちづくり学習会を通して意見や情報交換を繰り返す過程で、商店街と企業、行政、大学教員、参加した市民との間で課題を共有し、価値観の相違を残しながらも可能な部分から行動するなど、相互連携が深まった。例えば平成18年8月に、学習会の幹事を務める商店街リーダーを中心に商店街、百貨店、企業が集まり、まちづくり協議会「すきたい熊本」が発足した。工房も幹事にも加わった。協議会構成員に協賛金や事業資金を募りながら、まちなかの賑わい作りに向けた各種イベントを企画し実行している。
- 2) 同じ年に、中心市街地活性化協議会準備会を発足させ、平成19年には熊本市中心市街地活性化基本計画が大臣認定を受けた。短期間に取り組みが進んだ背景には、学習会による地元連携促進が貢献したと考えている⁴⁾。

- 3) 学生達にとっても、人々の考えを聞く機会が増えたことで視野が広がり、さらには学生が研究の成果を発表し、地元や行政の計画検討作業に直接参加する機会をえたことも、学習の充実や動機づけの点で前進した。また地元の人々や行政との親近感がフィールド調査時の安心感を深め、作業の積極性を高めた。
- 4) 学習会終了後に講師を囲む懇親会で、新たな話題が展開することも多い。経費負担力の問題で、学生達の参加機会が限られるのが課題である。

注および参考文献

- 1) 文部科学省特別教育研究費の助成による「ものづくり創造融合工学教育事業」(平成17-21年度)
- 2) 両角光男、他4名:まちづくり教育・研究における地域との新たな「関係のデザイン」を目指して—熊本大学工学部まちなか工房の取り組み—、工学教育協会平成18年度工学・工業教育研究講演会講演論文集(2006)、274-273、及び、小林英嗣、他編、地域と大学の協創まちづくり、学芸出版社、2008.11の2章の3に工房の組織や活動概要を紹介している。
- 3) 平成19年5月に中活計画の大臣認定を受けた。
- 4) 関連する一連の考察は2)の文献で述べている。